

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

城西中学校区	校番23	福山市立 城西中 学校
最終更新日	2019年(平成31年)2月1日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○2小学校から中学校への進学率が回復し中学校1年生が3クラスになった。各小学校に向けて早い段階から中学校の現状や取組内容を発信していった成果が出ている。</p> <p>●城西中学校区の学習面の共通課題に取り組んでいるが、宿題の内容、量などを校区で連携が必要である。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○29年度「基礎・基本」定着状況調査タイプIで算数数学は3校とも県平均を上回ることができた。</p> <p>○小中合同挨拶運動や地域清掃ボランティア活動を通して、児童生徒がお互いに人間関係を広げ深めることができた。</p> <p>●体力・運動能力調査においては、概ね各学年県平均を越えている項目が増えたが、体力向上へ向けた取り組みが必要である。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>コミュニケーション力・表現力・忍耐力</p>	<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>地域に愛着と誇りを持ち、心豊かにたくましく生きる子ども</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>○生徒指導規程を生かした指導を行う。</p> <p>○「自ら考え学ぶ授業づくり」(課題解決型の授業づくり)「考えを伝え合う活動を効果的に取り入れた授業」の研究・研修を行う。</p> <p>○校区スタンダードによる「家での5つの約束」の推進を図る。</p>

III 自校

<p>ミッション</p> <p>「明るく生き生きと安心して生活できる学校」をめざし、生徒、保護者、地域、職員が誇りを持って全ての人から愛される学校づくり。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>コミュニケーション力・表現力・忍耐力</p>
<p>学校教育目標</p> <p>心豊かに、たくましく社会を生き抜く力の育成</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>全学年</p> <p>【自己肯定感を高め、自分の考えを持ち、自分の言葉で適切に表現できる。】</p> <p>○生徒は、学校、地域・社会のボランティア活動に進んで参加をしている。</p> <p>○生徒は、課題解決へ向けての学習活動を意欲的に行っている。</p> <p>○生徒は、「考えを書く」「伝え合う」「話し合う」場で自ら活動している。</p> <p>○生徒は、協力し合う喜び、授業がわかる喜びを味わっている。</p>
<p>現 状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査において昨年度より県平均を上回る教科もあり、授業改善が徐々に成果が出てきている。各教科において基礎的な問題の定着が不十分な領域があり、課題である。 ・家庭学習の時間や内容、授業に向かう姿勢においては、改善されてきている。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福山市調査問題の結果、各教科基礎的学習の定着が不十分な領域に対する補充学習が必要である。 ・すべての教科で生徒作品(言語活動)の作成が行われており、実践内容の交流・研修ができた。 ・チャレンジノートの取組は継続しており、プレゼンによる交流で、学習の質の向上を図ることができた。 ・不登校傾向の生徒への取組。次年度への指導の方向性と推進体制の協議を進めている。 ・教え合い、補充学習の実施・継続が必要である。 	<p>教科等</p> <p>特別活動</p>
	<p>研究</p> <p>主題・内容等</p> <p>自分の考えを持ち、自分の言葉で適切に表現できる生徒の育成 ~自ら学ぶ場、協働的な学びの場の工夫を通して~</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各評価指標の分析を基にした授業改善 2 全教科・領域で豊かで効果的な言語活動と思考力育成の場を取り入れた授業の創造 3 協働的な学びの創造 4 学力に課題が大きい児童生徒への支援と学習内容の創造
	<p>めざす授業の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通の課題が設定され、生徒は解決へ向けての学習活動を意欲的に行っている。 ・「考えを書く」「伝え合う」「話し合う」場が設定され、生徒は自ら活動している。 ・個の課題に合わせた支援が適切に行われ、生徒はわかる喜びを味わっている。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 城西中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
7	学力の向上と定着を図る	★	継続	基礎的・基本的な学力の確実な向上 【小中一貫】	○言語活動と生徒どうしが関わりあう授業改善を行う。	△「全国学力状況調査」・標準学力調査において通過率を県・市平均以上にする。	・「全国学力・学習状況調査」全教科とも県差-5 から-6ポイント ・「標準学力調査」2学年の社・理・英は全国差+1.8から+3.7, その他の教科は全国を下回っている。	3	2	基礎的な学習の繰り返しによる基礎学力の定着と、生徒のつまづきの分析に基づいた生徒どうしの関わりのある授業づくりを行う。	□「全国学力・学習状況調査」全教科とも県差-。「標準学力調査」2学年の社・理・英以外は全国差-。 ◎成果の出ている教科もあるが、全教科の学力の向上に至っていない。	3	2	2	各種調査の分析によるこれまでの授業改善を振り返り、残る課題に取り組む。
				家庭学習の充実 【小中一貫】	○自主ノートの毎日の提出をやりきる。 ○自主ノートの良い内容を生徒に示し内容の充実を図る。	△自主ノートや教科の課題をすることで、家庭学習1時間30分以上の生徒を70%以上、1時間以上の生徒を85%以上にする。	・「家庭学習 1 時間 30 分以上」が 53%, 「1 時間以上」が82%	3	3	自主ノート提出率100%をめざし、モデルとなる生徒の自主ノートを掲示する等し、質の高い学習内容を共有させる。	□「家庭学習 1 時間 30 分以上」が 45%, 「1 時間以上」が75%。 ◎自主ノートの内容の向上も図る取組を加え、家庭学習の充実が徐々に図られている。	3	2	3	自主ノートの内容の向上を図り、家庭学習を意図的、計画的、継続的に仕組む。
1	自己指導能力の育成を図る	★	見直し	自己肯定感の高揚	○自分磨きや協力で応援をもらう行動をとる。	△生徒アンケートで『応援をもらう行動ができた』を70%にする。	・「応援をもらう行動ができた」3学年とも80%以上	3	4	教職員が積極的に「応援カード」を記入し、生徒へ広げ、生徒集会で紹介する。保護者へも伝える。	□「応援をもらう行動ができた」1年82%, 2年89%, 3年80% ◎自己肯定感の高揚が図られた。	3	4	4	「応援カード」の積極的な記入と活用方法を考え実践する。
9	健康・体力づくりの推進を図る		見直し	望ましい生活習慣の確立 【小中一貫】	○生徒会を中心にした点検活動をしていく。 ○保護者へ通信等で呼びかけを行い協力を得る。	△テスト期間中にメディアに接する時間が1時間30分以下の割合を50%以上にする。	・「テスト期間中にメディアに接する時間が 1 時間未満」75%	3	4	ノーマディアの取組みは継続し、標語づくりを実施・掲示することで、意識を高める。	□「テスト期間中にメディアに接する時間が1時間30分以下」88% ◎ノーマディアの取組を中心に、校区での取組も定着し、望ましい生活習慣の確立へ向け、一定の成果があげられた。	4	5	5	ノーマディアの取組の継続と「家での5つの約束」の保護者への啓発と生徒の意識の向上に努める。

3	組織的な指導体制の充実を図る	★	見直し	「社会的な自立」に向けた支援の確立	○保護者、関係機関との連携を図り、不登校生徒の減少に取り組む。	△年間30日以上欠席者数を15人以下にしている。	・1学期末時点での30日以上欠席10人	3	3	不登校委員会の実施。学校相談員やカウンセラーと連携をし、生徒・保護者への教育相談を実施していくなどし、登校できる日を増やす。	□2学期末時点での30日以上欠席18人 ◎不登校対策委員会を実施し、組織的な取組にすることはできたが、課題も残った。	3	2	2	学校相談員や学校カウンセラーとの連携を密にし、家庭訪問による保護者連携、登校刺激などの取組を図る。
1	教職員の指導力、専門性の向上を図る	★	見直し	教職員の授業力の向上【小中一貫】	○「課題発見・解決学習」を主題とした授業研究をする。	△生徒アンケートによる「授業が分かる」の評価が各教科85%以上にする。	・「授業がわかる」全教科平均89%	3	3	学力調査で明らかになった課題に対する取組を各教科で実施する。	□「授業がわかる」全教科平均88% ◎授業において、設定すべき課題・工夫を考えた指導計画の作成を行うなど、指導力の向上が図られた。	4	3	3	重点取組を意識した授業づくりとブロック研修、小中一貫での課題を授業に反映する授業改善を図る。
1	機動的な組織体制の推進を図る		見直し	学校の組織力の向上	○学校通信、学年通信を月1回以上発行し、HP更新を月1回以上行う。 ○地域への発信を工夫する。	△保護者アンケートの学校満足度を90%以上にする。	・学校満足80.3% 「教育方針わかりやすく伝えている」78% 「積極的に情報発信、学校の様子がわかる」75% 「わが子を通じてよかった」89%	3	3	引き続き学校通信月1回以上・HP更新月2回以上行う。	□学校満足82.3% 「教育方針わかりやすく伝えている」80% 「積極的に情報発信、学校の様子がわかる」76% 「わが子を通じてよかった」91% ◎全教職員が共通の意識の下、組織的な取組が図られた。	3	3	3	通信発行、HP更新は継続し、校内の掲示物の充実を図り、地域・保護者に関わられた学校づくりをする。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。